

後鳥羽院遷幸800年記念事業 お知らせ

■計画・調整中の行事(2020年11月中旬現在)

令和3年(2021)度

隠岐神社記念神輿渡御の奉祝事業



隠岐神社では遷幸800年を記念した神輿渡御を計画。これにあわせて、神輿ルートで楽しめる催しを検討中。

後鳥羽院伝承を島民で伝える「島民劇」



後鳥羽院の島での19年は、京都の日々とはまったく異なっただけです。院の目に映った隠岐、隠岐人が感じた院の存在を、島民参加の創作劇などの形で伝える事業を検討中です。

令和4年(2022)度以降

隠岐の生活文化と共に継承されてきた「牛突き」



後鳥羽院の島でのお楽しみの一つが「牛突き」と伝わり、牧畑の循環型の生活文化を背景に続いてきました。800年をお祝いして隠岐の牛突き文化に関する事業を検討しています。

刀剣文化に親しみ語り継ぐ「平成御番鍛冶」



上皇は常に最高を求められました。その一つが刀剣で、作刀を担当した刀匠を御番鍛冶とも称します。世界でも注目される現代の名匠と隠岐をつなぐ記念事業を検討しています。

一服の茶からおもてなしの心を学ぶ「裏千家 献茶式」



心の表れが作法となります。隠岐神社創建時に納められた昭和の名品を用い、日本を代表する茶人による一服を献じる行事です。おもてなしの心を学ぶ機会ともなるように計画しています。

世界との交流の入り口「和歌・短歌・俳句」



五・七調で言葉を編む日本の歌文化は時を超えて親しまれています。上皇も和歌の名手とされると同時に、島と京都を結ぶ歌の交流事業も進められました。歌文化に親しめる機会を計画します。

■顕彰事業のホームページができました！

<https://www.gotobain-kensyo.com/>



■「Go To 文化展」に出展しました！<11/13(金)~11/15>

